

船舶事故調査報告書

平成23年10月13日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 石 川 敏 行

事故種類	衝突（護岸）
発生日時	不明（平成22年10月29日 20時ごろ～30日 08時40分ごろの間）
発生場所	熊本県天草市御所浦町 ^{ごしょうら} 牧島西岸のグミノキ埼北方の護岸 御所浦町御所浦島所在の御所浦港本郷北防波堤灯台から真方位291°3,400m付近 （概位 北緯32°21.1′ 東経130°18.1′）
事故調査の経過	平成22年11月1日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{ほうぎよ} 豊漁丸、4.4トン KM3-29342（漁船登録番号）、個人所有 11.16m（Lr）×2.62m×0.84m、FRP ディーゼル機関、295kW（漁船法馬力数）、昭和63年8月16日
乗組員等に関する情報	船長 男性 59歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年11月11日 免許証交付日 平成16年11月22日 （平成22年11月14日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	船首部が大破
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成22年10月29日20時ごろ定係地である牧島南東部の牧島漁港を出港し、翌30日08時40分ごろ、牧島西岸のグミノキ埼南西方沖において、船首部が大破して転覆した状態で漂流しているところを出漁中の地元漁船によって発見され、海上保安部に通報された。 船長の家族らは、本船の船首部の破損状況から本船が岩場に衝突した可能性があるため、衝突場所を探していたところ、グミノキ埼の北方200m付近の護岸（以下「本件護岸」という。）に衝突痕があり、本件護岸付近に本船の破片、防舷材などが散乱しているのを発見した。 海上保安部及び僚船は、転覆した本船の船内及び付近海域の捜索を行ったが、船長を発見することができず、本船は、僚船により御所浦島にある御所浦漁港（本郷地区）にえい航されて陸揚げされた。

	船長は、翌31日08時ごろ船長の親族により機関室内から発見され、溺死と検案された。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.5m	
その他の事項	<p>船長は、約44年間漁業に従事し、ふだん、船長と家族の2人で乗り組み、主にごち網漁を行っており、操舵室右舷側の台に腰を掛けて目視により周囲の地形を確認しながら約18ノット(kn)の速力で航行していた。</p> <p>本船の操縦ハンドルは、陸上に引揚げ時にふだんの航行時と同じ全速力前進から少し速力を落とした位置になっていた。</p> <p>船長は、29日は休漁日であったことから、畑の草取りやテレビを見るなどして過ごし、20時ごろ家族に「親戚の家に行ってくる」と言って自宅を出た。その後、家族は、本船の係留場所付近の防波堤に釣りに出掛けたとき、本船が係留されていないことに気付き、21時ごろ船長の携帯電話にかけてみたが留守番電話になっていた。</p> <p>本船の係留場所は、船長の自宅の近くであった。</p> <p>船長は、発見されたとき、ジャージを着用してサンダルを履いた状態であり、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>本船は、鉄工所での整備を終えたばかりであった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>本船は、29日20時ごろ牧島漁港を出港後、翌30日08時40分ごろグミノキ埼南西方沖において船首部が大破して転覆した状態で漂流しているところを発見されたことから、この間において、本件護岸に衝突した可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、操縦ハンドルが全速力前進から少し回転数を下げた状態となっていたことから、約18knの速力で航行していた可能性があると考えられるが、船長が死亡したことから、衝突に至る状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、転覆した船内で溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	本事故は、本船が、牧島漁港を出港後、グミノキ埼西方沖を航行中、本件護岸に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	